

38. オニバス（スイレン科オニバス属）

Euryale ferox Salisb.

2015年8月

栄養分のあるため池やクreekなどに生育する大形の一年生水草で、葉を水面に浮かべる浮葉植物です。葉の表裏、葉柄、花茎など、植物体全体に鋭い刺があります。茎は塊状で多数の根を出します。葉は根生し、種子から最初にてた葉は沈水葉で針状、次に矢じり形となり鉞形に変化します。4～5枚目で浮葉となります。10数枚目から楕状の円形葉となり直径1.5mにも成長します。ときには2mを超える巨大な葉もまれに見られます。光沢のある表面はしわがあり、裏面は赤紫色で葉脈が稜状に隆起します。花は閉鎖花と開放花があり、自家受粉する閉鎖花は7～9月ごろ、紫色の美しい花の開放花は8～9月に見られます。開放花は種子生産が悪く、繁殖はおもに閉鎖花で生産された種子で行います。種子は直径1cmほどで、淡紅色の斑点をもつゼリー状の仮種皮に包まれています。種子は埋土種子として何十年も泥中に休眠ことが分かっています。兵庫県版レッドデータブック2010のBランク、近畿版レッドデータブック2001のCランク、日本の絶滅のおそれのある野生生物第4次レッドリストはVUランクに位置する希少な植物です。分布は本州、四国、九州、アジア東部、インドです。兵庫県では播磨地域を中心に平野部の皿池に生育地がありますが、毎年出現する池は少なく、多くのため池では出現にむらがあります。そのため出現しない年が続くと絶滅したと思われる池でも突如、出現したりする不可思議な植物です。



オニバス



解放花



閉鎖果 種子が見える



初期の浮葉（2015年6月2日）高砂市